

「土砂災害防止に関して」

千葉県 柏市立柏中学校 2年 瀬藤 里奈

2021年7月に静岡県熱海市伊豆山地区の逢初川で発生した大規模な土砂災害、多数の避難者・死亡者が出てしまいました。

ちょうど伊豆山神社のふもとに母が勤める会社の保養所があり、何回か泊りにいていた場所付近でした。テレビで見ても道がなくなり、建物があった場所も土砂で埋め尽くされていて、衝撃を受けた事を覚えています。発生から10か月、実際にその保養所を訪れる機会がありましたが、黒い大きな土のうが何か所にもあり、災害の規模を間近で感じた瞬間でした。今後同じ様な被害はあってはならない事だと強く感じています。それと防ぐことの出来ない災害について、被害を最小限に食い止める策も重要です。そこで、土砂災害防止の為には何をすべきか実際の事例を参考に対策し、繰り返さない事を願います。

災害での被害には3つ要因があり、人為的なもの・自然発生的なもの・私達人の事前・事後行動によるものになると思います。自然発生的なものを防止する事は難しいので少なくとも、人為的なもの、人の事前・事後行動によるものなどは、出来る事はやっていくべきだと考えます。

まず人為的なものの対策についてですが、今回の伊豆山地区災害については、人為的なものが要因でした。被害が拡大した原因として上流山間部の違法盛土の崩壊があり、さらにその後の調査で国や自治体のずさんな盛土規制と大量の違法盛土が全国的に存在していることが明らかになり、盛土規制の大幅強化へと発展するというものでした。

人工的に造られた「盛土」は、一般的には元の地盤に比べて弱いとされ、大雨で水を大量に含むと、地盤と盛土の境界部分が滑って崩れる恐れがあるそうです。

このため、盛土の斜面の角度や高さを安全な範囲で行い、地下水を排水する施設を設けたり、斜面をコンクリートなどで補強したりするなど適切な対策とチェックを国や自治体が行ってくれることを願います。

次に、すぐには改善できませんが自然発生的なものです。地球温暖化の影響により線状降水帯や海水温上昇で複数の台風発生、またその台風の規模も大きく被害が増加している様に感じます。その要因として挙げられることは、温室効果ガス（その多くを占める二酸化炭素）により、気温の上昇や気候変動を起こしていると言われていています。これについては、世界各国・企業が重点的に取り組みしていますが、今後更に加速させていく必要があります。

3つ目は私たち人の安全行動（事前・事後対策）意識です。ラジオやテレビのニュースを聞いていると、まだまだ逃げ遅れや対策不足が否めません。誰も「自分たちは大丈夫」や「まさかこの地域がこんな事になるなんて」などのコメントを多く耳にします。人は経験しないと具体的な対策を考える事をしないかもしれませんが、日本においても全国各地で起こっている災害を自分事として受け止め準備していく様になれば、もう少し人的被害を食い止める事ができるはずです。

具体的な安全対策としては、1. 土砂災害の予兆や前触れを知っておく。例えば、流水が異様なほど濁り始める。雨は降り続けているのに、川の水が急激に減る。土のおいを多く感じる。など他にもがけ崩れや地すべりについても具体的な予兆が多々あるので、そういった環境変化に気づく事が重要だと思います。2. 非常持ち出し袋の準備。中身の期限や保管場所、いざという時に持ち出せなければ意味がないので、家族間での共有も大事になります。3. 避難場所の確認と連絡手段の共有。以上のこういった内容をしっかり理解し、実際に行動に移せる習慣があれば、被害を減らせるはずです。

最後にここまで土砂災害についての対策を挙げてみましたが、どれか1つでも欠けてしまえば同じ被害の繰り返しです。国や自治体、企業、各自が同じ方向を向いて取り組まなければなりません、実際には難しいと思います。災害防止にあたり何か仕組みとして生み出されないかを期待して、この先も土砂災害防止について考えてみたいと思います。